

「花尾小学校の岩戸疱瘡踊り伝承活動の取組」

1 学校名

鹿児島市立花尾小学校

2 学年・人数

3年生から6年生（計17人）

3 日時・場所

- (1) 練習の日時・場所：平成29年11月11日(土) 総合的な学習の時間（花尾小体育館）
平成29年11月17日・21日 昼休み時間の時間帯(多目的教室)
- (2) 発表の日時・場所：平成29年11月26日(日) 学習発表会及び花尾地域ミニ文化祭
（花尾小体育館）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

- (1) 名称 岩戸疱瘡踊り（いわどほうそうおどり）
- (2) 由来

岩戸疱瘡踊りは、藩政時代から踊り継がれてきた古い踊りであると言われている。昔、恐ろしい伝染病である天然痘が蔓延したことがあり、その予防と早い治癒を願って踊るもので、真剣な祈りの心が込められた優雅な踊りである。天然痘が絶滅し、踊りも一時途絶えていたが、終戦後に復活し、今では地域の行事や地区の文化祭などで踊られている。平成17年に鹿児島市の無形民俗文化財に指定された。

- (3) 構成等

この踊りは、前踊りと後踊りで構成されている。前踊りは、手踊り20人くらいに太鼓打ちと太鼓持ちが6組ほどで、三味線に合わせて踊り、手踊りの中に傘踊りも入る。後踊りは、黒装束の3人の大シベ持ちがいて、そのシベ持ちの後ろに踊り子がつく。踊り子は小シベを持ち、横3列から4列ぐらいでシベ踊りをする。その後、踊り子が円になって踊り、大シベ持ちは円の中に入る。音楽は三味線と太鼓と拍子木等を使う。踊り子の服装は豆絞りの手ぬぐいに、赤の長襦袢、浴衣（昔は緋）に白足袋姿で踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

総合的な学習の時間に、花尾地域固有の良さに気付き、伝承していくことの大切さを自分のこととして受け止め、よりよい解決を目指して行動する一連の探究活動の過程に、踊りの練習（体験活動）を位置付けた。講師は岩戸自治会の疱瘡踊り保存会にお願いし、今年度は土曜授業日を含めて3回指導をしていただいた。子どもたちは学習発表会前には、昼休み時間を活用し自主的に練習した。踊りに必要な用具（傘や太鼓、箆）は、保存会から借用している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら岩戸疱瘡踊りを継承していくために、3年から6年まで4年間学ぶ。保存会の方から学んだ踊りや太鼓打ちを4年間実践することで、高学年の児童が新しく学ぶ3年生に指導することができるようになる。

平成27年度までは、3年生以上の女子が踊りだけを披露していたが、本来の形である太鼓踊りも復活させたいという地域の願いから、平成28年度から3年生以上の男子が太鼓踊りを担当した。毎年、発表の場を学習発表会及び花尾地域ミニ文化祭のプログラムの中に位置付け、今年度も約140人の地域の方々の前で披露することができた。

7 取組の実際



【11月11日 太鼓の練習をする子どもたち】



【11月11日 踊りの練習をする子どもたち】



【11月26日 学習発表会・地域ミニ文化祭で疱瘡踊を披露する子どもたち】



8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 小さい手の振り付けなどが難しかったけど、練習して間違わずに上手に踊れたので良かった。来年は6年生なので、みんなに振り付けを分かりやすく教えられたい（5年女児）。
- 去年から、太鼓が加わり、岩戸ほうそう踊りはとてもにぎやかになった。2年目なので、去年より上手くなった。これからも伝統をつなげていきたい（6年男児）。
- 下の学年に動きを教えるのが難しかった。リズムに合わせて、太鼓をたたくところがあいまいになったが、本番はしっかりとたたけて良かった（6年男児）。
- 花尾地域内の3つの伝統芸能で、これまで学校の授業の中で練習・披露を行っているのは「岩戸疱瘡踊り」だけであったが、今年度から、「大平獅子舞踊り」についても、総合的な学習の時間に探究活動・練習を行い（3学期）、次年度の5月に行なわれる合同運動会で披露するようにする（教職員）。
- 指先や視線、姿勢まで細かな点でいうとまだまだであるが、子どもたちが伝統芸能を継承してくれることに感謝している（保存会）。
- 子どもたちが「岩戸疱瘡踊り」を通して、自分たちの住む地域を知り、また地域との関わりを持てることに喜びを感じる（保護者）。